

## 新たな総合5か年計画策定に向けた意見交換会実施状況

(H23.10.21以降 H24.1.15現在)

### 若者との意見交換会

松本大学の学生の皆さんとの意見交換会

日時：平成23年10月21日(金) 13時30分～15時30分

参加者：松本大学総合経営学部の学生17名

委員参加者：青山佳世委員、上原貴夫専門委員

テーマ：私が望む将来の長野県

提案内容：

- 1班...最先端のアナログ都市～自然環境に対して100歩先を行く長野県～
- 2班...長野に雇用～長野県を好きになり、長野県で働いてもらうために～
- 3班...『ずく出せ、もてなせ、信州人。』～心の豊かさあふれる「観光立県」の実現～

長野県短期大学の学生の皆さんとの意見交換会

日時：平成23年11月2日(水) 16時00分～18時00分

参加者：長野県短期大学の学生15名

委員参加者：上原貴夫専門委員

テーマ：私が望む将来の長野県

提案内容：

- 1班...やっぱり離れられない～過疎地の中心で愛を叫ぶ～
- 2班...健康の地。長野
- 3班...Know Yourself ～外国人にとって住みやすい県にするために～
- 4班...若者視点の暮らしやすい県づくり

新たな総合5か年計画策定のための「4大学合同意見・提言発表会」

日時：平成23年11月23日(水) 10時00分～11時30分

参加者：県内4大学の学生24名

(信州大学3名、長野大学4名、松本大学3名、長野県短期大学14名)

委員参加者：上原貴夫専門委員、扇田孝之専門委員、武者忠彦専門委員

内容：県内4大学で実施した「若者との意見交換会」でとりまとめた意見・提言の発表と知事を交えた意見交換

主な意見：

就職について

- ・10代の就職に困っている人たちなど、いろいろな人たちの声を聞く機会が必要
- ・学生は安定性を重視するので、企業の誘致も必要だが、それよりも今ある企業の安定性や魅力をアピールすることも必要

観光について 4班...若者視点の暮らしやすい県づくり

- ・地域のことをよく知り、その良さをアピールできるようになることが必要
- ・興味のある人たちへピンポイントで情報発信することが必要
- ・アニメやゲームで使われた場所をアピールすればいい。

## 県民・団体との意見交換会

事業仕分け県民判定人との意見交換会（長野会場）

日時：平成24年1月14日（土） 9時30分～12時30分

参加者：事業仕分けで県民判定人を務められた方25名

委員参加者：扇田孝之専門委員、小澤吉則専門委員、中澤勇一専門委員

テーマ：私が望む将来の長野県

提案内容：

- 1班(教育)...長野県の独自性のある教育が実現し一人ひとりの子どもが大切にされる社会
- 2班(地域づくり)...信州はすばらしい自然と地域からの創造
- 3班(医療福祉)...安心して子どもを産み育てることができ、経済的ゆとりをもって年を重ねることができる社会
- 4班(産業雇用)...長野県の特長を活かしたもうかる産業づくり

事業仕分け県民判定人との意見交換会（伊那会場）

日時：平成24年1月15日（日） 13時30分～16時00分

参加者：事業仕分けで県民判定人を務められた方4名

テーマ：私が望む将来の長野県

提案内容：技術、技能、知識の温存（高齢者の技能の継承）など

松本大学 1班 (環境)

目指す姿 (キャッチフレーズ)

最先端のアナログ都市 ~ 自然環境に対して100歩先をいく長野県 ~

視点

- ・自分がずっと住むとしたらどんな長野県がいいか？
- ・長野県から外へ出て行きたくなる理由は？

現状・課題・強み・弱み等

- 1 景観
  - ・無駄な道路舗装が多い。
  - ・国道沿いの景観が悪い。
  - ・松本駅周辺、市街地の景観が悪い。
  - ・きれいな自然の景観は強み
- 2 エネルギー
  - ・上高地の車・バスの排気ガスが気になる。
  - ・原子力発電所の問題
  - ・太陽光発電
- 3 自然環境
  - ・畑・田んぼの減少 (農業をする人がいなくなる。)
  - ・団地の増加
  - ・水をはる面積が減ると気温が上がる。
  - ・中国人富裕層による山の買占め
  - ・スキー場、ゴルフ場が多いが、利用者が減少している。

課題の解決策・強みを活かした取組等

- 1 景観  
便利さを追求すると景観が悪くなる。  
長野県らしさがなくなる。  
しかし、若者はどんどん都会に出て行く。  
農業の跡継ぎがいなくなる。  
⇒ 自然がきれいなところは開発しないで守る。  
発展させるところはしっかりと発展させ、メリハリをつける！
- 2 エネルギー  
(1)電気自動車の普及
  - ・公共のバスやタクシーでの導入
  - ・充電箇所の設置  
(2)公共交通機関の充実
  - ・電車、バスの本数を増やす。  
⇒ 公共のバスやタクシーを電気自動車にして空気をきれいに！  
太陽光発電を公共施設から普及させる！  
各家庭への設置も援助する！
- 3 自然環境
  - ・土地の有効な利用の仕方を考える。  
学校が田んぼを買う。
  - ・収穫体験などで農業の良さをアピールする。(長野県の強み)  
⇒ 使われていない畑や田んぼを有効活用！  
収穫体験などで農業の良さをアピールし、農業を始める若者を増やす！

目指す姿(キャッチフレーズ)

長野に雇用~長野県を好きになり、長野県で働いてもらうために~

現状・課題・強み・弱み等

- 0 就職の背景にある問題
    - ・漠然とした就職できるかという不安、最低賃金の低さ、親の介護等の将来を考えず県外に出て行く若者が多い、自分のやりたいことができる就職先がない、農家において家族間での働き手がない。

---

  - 1 農業
    - ・就職する人が少ない。農業に対する若い人の関心が薄い。跡継ぎがない。耕作放棄地が多い。
  - 2 教育
    - ・他県へ進学する人が多い。大学、専門学校が他県に比べて少ない。
  - 3 福祉
    - ・高齢化が進む。団塊の世代が逆に仕事への意欲を削る。福祉につく人材が必要になる。
  - 4 商工業
    - ・長野県内に中小企業が多いと思うが若者に情報が届いていない。若者が中小企業に目を向けていない。「長野県の大企業は少ない」と思っている。就職したくなる企業が県内に少ない。
  - 5 観光
    - ・県内の、全国的に知られている観光資源が一部で、全てを活かせていない。
- 若い人が長野県に残らず、県外へ出て行ってしまふ点が問題

課題の解決策・強みを活かした取組等

都会の方が魅力的だと思う若者は長野県から出て行く。それぞれの魅力を認めることがまず必要  
長野県は様々な面で魅力はあるものの、上述のように全般的にアピール不足。県内外に魅力が完全に伝わっておらず、情報さえ伝えられれば県内雇用につながる余地が残っているのではないか。

若者に長野県を好きになってもらい、また県外から呼ぶためにも、下記をはじめとした施策が必要

- 1 農業
  - ・他県から農業大学生を連れてくる。農業を企業化する。
  - ・農業でどうすれば生活費を稼げるのか、商売のメカニズムを若者等にわかりやすく伝える。
- 2 教育
  - ・県内大学、専門学校の充実 1、3に関連
- 3 福祉
  - ・福祉施設のシステムを充実させるべき。バリアフリー設備を整える。
  - ・福祉に関する大学、専門学校を作る。 福祉を新しい長野のビジネスの形にする。
- 4 商工業
  - ・若者に対して中小企業に関する情報PRを積極的にすべき。
- 5 観光
  - ・県内の人気観光地がなぜ人気になったのかまで知ってもらえるようなアピール方法が必要
  - ・活かされていない観光資源を活かした仕事を作るべき。

松本大学 3班 (観光)

目指す姿 (キャッチフレーズ)

『ずく出せ、もてなせ、信州人。』  
~ 心の豊かさあふれる「観光立県」の実現 ~

現状・課題・強み・弱み等

- (住民)
- ・ 住民が観光に興味がない。外国から来た人に対応できていない。外から来た人に対して閉鎖的
- (まち・景観・自然)
- ・ 水、山、田園などの観光資源が他県より恵まれている。
  - ・ バリアフリーでない。女子トイレが少ない。
  - ・ 観光客が楽しめない松本駅前。景観への配慮が足りない松本城周辺
  - ・ 山間部と都市の差が大きい。
- (観光立県?)
- ・ 観光立県のわりにあまり観光客が来ていない。
  - ・ PR不足で長野県の良さが他県にうまく伝えられていない。
- (交通アクセス)
- ・ 電車、バスが少なくどこへ行くにも不便。観光地へのアクセスがあまりよくない。
- (その他)
- ・ 観光地の高齢化の進展。高齢者の楽しみが少ない。
  - ・ 大学の学費が高い。最低賃金が低い。若者の都会への流出

観光に対する一人一人の住民の意識が低いことが原因ではないか。

課題の解決策・強みを活かした取組等

- 【観光県のための人づくり】
- ・ 松本大学などの観光に関する高等教育機関の設置・充実
  - ・ 市民を対象とした観光コースの設定による市民教育
- 住民意識の高まり 皆が課題解決へ取り組む 観光立県の実現 雇用増加 若者流出阻止
- 【課題解決のための取組】
- (人と人との交流のしくみづくり)
- ・ 高齢者が観光客に地域の素晴らしさを伝える場づくり(満足する観光客、活用しうる資源である高齢者)  
例: 世代間交流できるサークルづくり、語り部育成、ジジ・ババに講義をしてもらう。
  - ・ 外国人向けのガイドの充実
- (まち・景観・自然の整備)
- ・ バリアフリー化。女子トイレの設置
  - ・ 駅前のゾーニング(年代・店の種類ごとにある程度のかたまりにする)
- (長野県の良さのPR)
- ・ 旅番組等を通じたマスコミの活用。リピーターづくりのための『現地での』PR、思い出づくり
- (交通アクセスの整備)
- ・ 電車、バスの利便性向上(例: キャンペーンを打つ。ビジネス割。女子割)
  - ・ レンタサイクルのための駐輪場を充実させる。
- (若い人、子供にも楽しめる流行に合わせた土産品の開発)

キャッチフレーズ

やっぱり離れられない。～過疎地の中心で愛を叫ぶ～

現状・課題

現状:町に元気がない。

基礎的な課題と各方面への影響

商業

- ・シャッター商店街。物価が高い。スーパーやお店が少ない、または遠い。  
〔年金で暮らしている高齢者には不便な生活...〕

工業

- ・後継者不足。仕事がない。地元で就職できるのか就職への不安〔若者が暮らしにくい...〕

教育

- ・学力問題（近くに塾がないため学校での勉強が全てで学力が担任の力量に依存する。）  
長野県に大学が少ない。県外に進学して県外に就職してしまう。  
〔子ども、学生が学びにくい...〕

その他

- ・都会と田舎の情報格差。老々介護。老人の孤独死。交通の便が悪い  
車移動をせざるをえない。

町に元気がない現状に共通する点:人がいない。

- ・伝統を受け継ぐ後継者がいない。文化・伝統の衰退。子どもが少ない。若者がいない。  
結婚相手を見つけにくい。医者がいない  
人がいなくなり、～等の各方面に悪影響を与えた結果、町に元気がなくなっている。

取組・方策

取組:過疎地ならではのいいところを活用し、～等各方面での取組により、町を元気にする。

過疎地ならではの良いところ

- ・安全。お年寄りが元気。地域（近所）との結びつきが強い。  
「住み慣れた土地で暮らしたい」と思える地元愛が育まれる環境

商業

- ・商店街に統一感をもたらし、コアなファンを呼び込む。  
町の有名なもの、おいしいものを活かす。  
おばあちゃんの味、昔ならではの様々なものをお年寄りに教えてもらう。

工業

- ・退職後に戻れる体制づくり。お年寄りならではの仕事を。若者の仕事を増やす。

教育

- ・県内大学進学への支援（県内就職に有利、入学金・授業料などの県民割など）

長野県短期大学 2班（健康と観光）

キャッチフレーズ

健康の地。長野

現状・課題

1 観光地・街

好きな場所や観光地はあるが、「長野といえば!」というものがない。

パッとする観光地が少ない。

南信の観光スポットが少ない。

お年寄り向けのスポットが多く若者向けが少ない。

(課題)観光にインパクトがない。

2 交通

電車・バスの本数が少ない。

交通の便が悪い。

道が狭い。

3 ストレスフリーな生活

健康に良い食べ物 = 寒天、自然のきのこや山菜などの山の幸、そば

自然の豊かさ = 星がきれい。空気がきれい。山がきれい。景色がきれい。紅葉がきれい。

温泉が豊富。自然にふれあえる。

スポーツ = ウォーキング、スキーが楽しめる。

のんびりした雰囲気

4 健康長寿

長寿のためお年寄りが多い。

自給自足で働いていてお年寄りが元気

(強み)ストレスフリーな生活を送っている  
ので「健康長寿」である。

取組・方策

【方向性】 「健康・長寿」のもとである「ストレスフリーな生活体験」を取り入れて観光の魅力アップさせる。

健康になれる観光の提供

【取組】

1 「健康の地。長野」を体験してもらうための取組

健康な食べ物で健康に。

- ・ そばうち体験の充実
- ・ 山菜やきのこ狩りツアーの開発
- ・ かんてんぱぱツアー

自然を体験して健康に。

- ・ 森林整備ボランティアツアー
- ・ かぶとむし捕まえようツアー
- ・ 温泉を楽しめる温泉村の設置
- ・ アスレチックを増やす。

まるごと体験で健康に。

- ・ 食べ物から自然まですべてを体験できるツアー
- ・ スキーと温泉のセットツアー

2 長野県中をまわって楽しめる環境の整備

公共交通機関の整備

道路の整備

キャッチフレーズ

Know Yourself ~外国人にとって住みやすい県にするために~

現状・課題

- 1 交通の不便さ
  - ・電車数が少ない。駐車スペースが少ない。
- 2 安全性の問題
  - ・街灯が少なく夜歩くのが怖い。歩道が狭く危ない道路がある。
- 3 活気がない
  - ・駅前に遊ぶ場所が少ない。
  - ・オリンピックを生かし切れていない。
  - ・地域産業に元気がない。
- 4 情報不足
  - ・長野県の良いところ、悪いところを知らなすぎる（長野県民という意識が薄い）。
  - ・県や行政の情報が伝わってこない。  
（森林づくり県民税や長野県短期大学4年制化など）

これらの問題は外国人にも共通する問題

取組・方策

皆にとって住みやすい県をつくる

- 1 便利な町
  - ・試験的に電車の本数を増やす。
  - ・駐車場スペースを確保する。
  - ・道路に名前を付ける。
- 2 安全な町
  - ・住民による地域のパトロール体制の強化、交通マナーの浸透
  - ・歩道が十分に確保されているかチェックし整備する（学校周辺を集中的に）。
  - ・街灯を増やす。
- 3 活気のある町
  - ・TPP参加を見越し、農産物を中心とした特産品を売り出す。
  - ・（外国人）観光客を呼び込む。
- 4 情報の共有と個人の意識の向上
  - ・長野県のことを良く知る（相手を理解するにはまず自分を知ることが大事）。
  - ・学校で長野県を学ぶ授業があればいい。
  - ・お互いにコミュニケーションを取る。
  - ・長野県民であるという意識を持ち、長野県をどんどんアピールする。

安全・便利で活気のある町の延長に、外国人に優しい町がある。  
それを踏まえ、言語や文化の違いからくる問題をサポートしていく。



キャッチフレーズ

若者視点を活用した県づくり

現状・課題

- 1 今学生が感じていること
  - ・公共交通機関の運賃が高く、本数が限られている。
  - ・国立大学の数が少ない。
  - ・寮が2人1部屋なのでプライバシーなど気がつかう。
  - ・大学生協の商品価格が高め。
  - ・学ぶ場の環境設備が十分でない。
  - ・学食を毎日利用したいが、高いと感じる。
  - ・地域社会と学生との関わり・連携が少ない。
  - ・大学で学んだことを活かせる就職先が少ない。
  - ・就職活動と学業を両立させることの難しさ。
  - ・長野県内（特に地元）で就職したいが、雇用数が少ない。
  - ・外国籍児童・未就学児童・不登校に対する支援が不十分
- 2 他県に誇れる長野県の強み
  - ・健康長寿県（平均寿命が男性全国1位、女性全国5位）
  - ・高齢でも元気に暮らしている人が多い（高齢者就業率が全国1位）。
  - ・製造業（ものづくり）の技術力が高い。
  - ・美しい自然環境（山・河川・森林・空気）に恵まれている。
  - ・都会のように賑やかではないが、暮らしやすい環境がある（落ち着いた心豊かな暮らしができる）。
  - ・農産物が豊富で、新鮮で美味しい食材が手に入る。
  - ・長野県で就職したいと希望している若者が多い。
  - ・地域ごとに特色がある暮らし（食・伝統行事・方言など）

取組・方策

長野県の強みを活かした良い循環を創る。

長寿県長野の健康・医療・介護の新事業を創造 雇用の促進 県内定住者の増加  
他県や他国のモデルケースへ 経済活性化

公共交通機関の運賃が安くなる 省エネ・エコのために公共交通機関の利用促進  
環境を大切にす長野県をアピール 長野県の鉄道・車両の魅力を再発見 利用者数の増加

課題から見えてきたもの

- ・学生が積極的に地域に関わる必要がある（地域社会の課題・問題を自らの事として捉えられるようになる。）
- ・その中から自分たちが出来ることは何かを探し出す事で、新たな発見・創造に繋がっていく。
- ・そのためには物事の成り立ちや背景をより深く知ることが重要！！
- ・理由の「見える」化を更に進める取組が求められる。

提案として

- ・学校教育の場で地域の課題・問題について議論する学び学習のカリキュラムを増やす。
- ・仕事や家族を持ってからでも学校で再び学ぶ時間が得られる制度づくり
- ・様々な社会的背景（年齢・国籍・立場）を持つ人たちが多様に学べる場と機会の提供
- ・学生の学びの成果を地域社会に還元する仕組みの強化（新しい産業や企業の創造）

## 新たな総合5か年計画策定に係る「4大学合同意見・提言発表会」での意見等

### 長野県に住みたいか

- ・ 経済的な豊かさよりも心の豊かさを求めて長野県で暮らしたい。
- ・ 長野県に住みたいと思ってもらえるように、長野県の魅力をアピールしていくことが必要

### 就職について

- ・ 卒業後はペンション経営をしたい。
- ・ 10代の就職に困っている人たちなど、いろいろな人たちの声を聞く機会が必要
- ・ 学生は安定性を重視するので、企業の誘致も必要だが、それよりも今ある企業の安定性や魅力をアピールすることも必要
- ・ 仕事を選ぶ上で、外国人と交流できることを重視する。

### 観光について

- ・ 外国人がたくさん訪れる県になって欲しい。
- ・ 外国人を受け入れるのであれば、外国人にわかりやすいまちづくりを考えていくことが必要
- ・ 地域のことをよく知り、その良さをアピールできるようになることが必要
- ・ 長野県の魅力は何なのか、長野県に何があるのかわからない。
- ・ 善光寺にはどんな魅力、どんな歴史があるのかをもっとPRして、そういうことに興味のある人を呼び込むことが必要
- ・ 興味のある人たちへピンポイントで情報発信することが必要
- ・ 仙台や福岡、横浜などのように賑わいがもっと集中し、そこで若者と連携する事業があればもっと魅力的なまちになるのではないかと。若者の意見を聞き、もっと若者を使って欲しい。
- ・ 長野県といえば山というイメージがあるが、山で観光客を呼び寄せ、長野県に来てもらったら県内の農村やお城、桜の名所などを周遊してもらおうプランを作ればいい。
- ・ 長野県の魅力を伝えていくという面では、シンプルな田舎の風景も大事
- ・ 東京にある若者に人気のお店が長野県にもあればいい。
- ・ 都会の人は自然を欲しているので、自然の中で夜景や星空が見え、夜まで恋人と過ごせる場所があればいい。
- ・ アニメやゲームで使われた場所をアピールすればいい。
- ・ イノシシや鹿、蜂の子など、長野県の郷土食を気軽に食べられる所が欲しい。
- ・ 地元をアピールするアイドルユニットをつくれればいい。

<長野県の将来像>

- ・ 家庭や地域でのふれあい、交流が充実している
- ・ 明るく楽しい先生、学校である
- ・ 一人ひとりの子どもが大切にされている
- ・ 長野県の独自性のある教育が実現している
- ・ 教育が活かせる「仕事」がある

<実現のための方策、アイデア>

長期連続休暇、育児休暇

- ・ 時計・携帯なしデー
- ・ 学校と地域の交流

先生と親の交流

- ・ 先生の責任を減らし、楽しい教育職場

乳幼児期～20才までもあったかシート

- ・ 小学4年生をしっかり支える
- ・ 多様な教育を提供する多様な学校の創設支援、誘致

信州独自の自治制度の構築

- ・ 信州学習指導要領の策定
- ・ 森の幼稚園の制度化
- ・ 農業、林業、温泉など長野県ならではの体験必修化

信州は素晴らしい自然と地域からの創造

< 課 題 >

- ・ 魅力づくり発信の仕方
- ・ コミュニティの弱体化
- ・ コミュニティへの参加意欲の低下
- ・ 自然への関心、自然の活用不足
- ・ 基盤整備  
 (ハード) 道・鉄道など  
 (ソフト) 買い物弱者、防災対策不足など

< 長野県の将来像 >

- ・ 魅力づくり、発信
- ・ 人と人との気楽、気軽にふれ合う場づくり
- ・ 女性・若者・高齢者などの世代(地域)をこえた交流
- ・ 人に役立つ自然づくり
- ・ 転ばぬ先の杖

< 実現のための方策、アイデア >

- 観光協会の再編成、道の駅の活用
- テーマ性を明確にした場づくり
- 魅力あるイベント、食
- オンデマンドバス、地域商店の再構築、ITの活用
- 積極的な森林整備、湧き水の利用、自然エネルギー

ほっこり信州・・・安心、責任、信頼、ゆとり、地域

< 課 題 >

- ・ 医師不足
- ・ 健康への意識の高まり
- ・ 高齢者を支える地域・家族
- ・ 少子化
- ・ 介護における環境

< 長野県の将来像 >

- ・ ネットワーク（交通・情報・医療など）で地域同士補い合う
- ・ 適切に医療が受けられる
- ・ 安心して子どもを産め、育てることができ、経済的ゆとりをもって年を重ねることができる社会
- ・ 介護が必要とされない社会

< 実現のための方策、アイデア >

医療のネットワーク化

- ・ IT共通電子カルテの導入
- ・ ドクターヘリなど、病院へのアクセスの確保

健康や薬に対する県民への意識づけ

- ・ 小中学生からの教育や一般家庭への呼びかけ
- ・ 飲んでいる薬を総合的に判断していただける所を作る

地域や家族で支える体制づくり

- ・ 高齢者の働く場づくり
- ・ 介護施設へ預ける場合の家族の心がけを周知

介護施設の環境の改善

- ・ 税制上の優遇を
- ・ 施設や従事者への補助金の充実

もうかる信州

< 課 題 >

- ・ もうかる産業が少ない
- ・ 働く場が少ない
- ・ 人材が県内にとどまらない
- ・ 農業が産業として成り立っていない
- ・ 長野県の特長を活かしきれていない

< 長野県の将来像 >

- ・ 人が集まる県（もうかる産業）
- ・ 豊かな県（収入・環境）
- ・ 信州の特長を活かした産業育成（製造業、農業、観光）

< 実現のための方策、アイデア >

長野県の特長を活かしたもうかる産業づくり

技術・技能をもった人材の育成（技能五輪をきっかけに）

次世代産業に向けた技術集積、産学連携

農業法人化（多様な人材の能力を活かす）

インバウンド推進のためのインフラ、受入環境整備

< 課 題 >

- ・ 人口減少、少子高齢化
- ・ 円高による国内産業の空洞化
- ・ 国内食料自給率低下（ＴＰＰによる更なる加速）
- ・ 国内技術競争力低下により国内生産困難となる恐れ
- ・ 山の荒廃の進行、シカなどの野生鳥獣の増加、不法投棄の増加

< 長野県の将来像 >

- ・ 人の地産地消（働き口を増やす）
- ・ 高齢者が安心して生活できる環境
- ・ 自己実現のできる（生き甲斐のある）社会
- ・ 「認知」される社会
- ・ ネガティブ（短所）をポジティブ（長所）に

< 実現のための方策、アイデア >

技術、技能、知識の温存（高齢者の技能の継承）

コスト競争に勝てるような「食」産業の仕組みづくり

- ・ ベースとしての食の教育
- ・ 民間との連携により県の野菜をPR

地域の人達との輪をつくる

- ・ 高齢者への声掛け、ゴミ出し、送迎等のボランティア

発想力を育てる教育

山を愛す

- ・ 里山整備
- ・ 不法投棄の防止のための鳥居の設置

市町村をハイレベルにもっていくための優良事例の紹介